

第6学年3組 音楽科学習指導案

【日時】令和5年7月25日(火) 8:45～9:30 【場所】音楽室 【指導者】御厨 有花

本授業の主張点

声の響きを重ねたアンサンブルで音楽づくりを行います。声の音色やリズムの特徴、音の重なりを聴き取り、全体のまとまりを考えながら、身近な音楽を用いて思いや意図をもってつくる児童の姿をお見せします。

1 題材名 いろいろな音色を感じ取ろう ～ボイスアンサンブル～

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、音色に焦点を当て、曲想と音楽の構造との関わり合いを捉える学習のまとめの題材である。いろいろな楽器の音色が組み合わさって生まれる響きの美しさや豊かさを味わって音楽を聴いたり、パートの役割を理解して全体の響きの中で音色や強弱などを工夫して表現したりすることがねらいである。第5学年ではパートの重ね方の工夫を学習しており、第6学年ではパートの役割にあった演奏の仕方の工夫へと学習が深まる。そして、中学校の曲の構造理解や音色に対する感覚へとつながっていく。

本題材で取り組む教材「ボイスアンサンブル」では、声の響きが重なる面白さに注目した音楽づくりの学習を行う。擬音語や発音の違いが生み出す声の音色がもつ強さや面白さについて味わうことができる教材である。パートの役割にあった声の高さや発音の仕方を工夫しながら、音の重なりや音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組みを生かして、3つのパートからなる声によるリズムアンサンブルを創作していくことを通して、児童は音楽のよさや面白さや美しさを実感していく。さらに、児童にとってよく耳にする楽曲をメロディーパートとして扱うことで、生活の中にある音楽を身近に捉え、表現したいという意欲につながるとともに、曲想に合った表現を工夫することができる。児童が思いや意図をもって表現するよさを感じて、友達と一体感や共有感、達成感を味わう経験を重ねていくことにより、これからの児童の音楽観を広げることにもつながる。

(2) 児童について

本学級の児童は、音楽活動に意欲的な児童が多く、音楽の授業を楽しみにしている。歌唱が好きで、自分たちで進んで2部に分かれ合唱をしたり、リコーダー奏でも曲想を生かした表現をしようと心がけて演奏したりしている。しかし音楽づくりの活動では、グループでの活動は盛り上がるものの、個人では、自分がつくったリズムに自信をもって演奏できる児童は少ない。また、ボイスアンサンブルは初めて取り組む活動であるため、どうつくるといいか戸惑うことも予想される。そこで、授業の導入時に言葉遊びやリズム遊びをしながら、言葉とリズムに慣れるような取組を行っている。

生活の中の音や音楽とどのような関わりをもっているかアンケートを取った結果、児童は様々な媒体から自分の好きな音楽のみを聴くことが多く、音楽の授業以外では表現活動をする経験はほとんどない。また、趣味嗜好が偏っており、友達と同じ音楽を共有し表現する経験が少なくなっている。そこで、身の回りの楽曲を教材化することで、児童の音楽づくりに対する意欲を高めながら、友達との一体感や共有感を感じられるようにしたい。同じ楽曲でもパートのアレンジの工夫により表現の多様性にふれ、お互いの表現を認め合い、音楽のよさや面白さや美しさを感じ取れるようにしたい。

(3) 指導について

指導にあたっては、まず、「木星」の鑑賞活動でオーケストラの豊かな響きに触れさせる。音色の異なる様々な楽器が重なりあうことで生まれる豊かな響きを味わって聴くことができるようにする。次に「ラバーズコンチェルト」の器楽演奏では、主な旋律、飾りの旋律、響きを豊かにする和音、響きを支える低音というパートの役割を考え、楽器を選択し、それぞれのパートの役割を考えた音色で演奏することができるようにする。最後に「ボイスアンサンブル」の創作活動では、まず、「ラバーズコンチェルト」のリズム伴奏を楽器の代わりに声で演奏することにより、声によるリズムアンサンブルに無理なく発展させることができるようにする。3つのパートの役割をしっかりとおさえ、そのリズムにふさわしい声の高さや発音の仕方を工夫させ、いろいろな組み合わせを確かめながら演奏できるようにしたい。

その後、4分の4拍子で2小節のリズムをつくり、パートの役割にあった言葉や声の高さ、発音の仕方を工夫することで、全体のまとまりのあるアンサンブルをつくることができるようにする。題材の終末では、児童にとって身近な楽曲に、ボイスアンサンブルを当てはめて演奏し、発表する「シャチハモ」を開催する。そのために、本時では、ボイスアンサンブルに必要な工夫を考える時間を設ける。児童がアンサンブルをしたいと思う楽曲を全体で数曲選び、その中からグループごとに選曲し、曲想に合うボイスアンサンブルを考えていく。児童用端末を活用しながら、自分たちのつくった音楽をすぐに確認できるようにし、話し合いながら思いや意図をもった表現の工夫となるように展開していきたい。

(4) 教材曲について

本題材で扱う教材曲について、音楽的知見と期待できる学びを表1に示す。

表1 教材曲に関する音楽的知見と期待できる学び

教材曲名・作曲者等	楽曲について・期待できる学び
「木星」 ホルスト 作曲	〈楽曲について〉A→B→A→coda(終末)の3部形式でできており、それぞれの部分の旋律は拍子や速度が変化しているため、その特徴とともに全体の構成を捉えやすい教材である。 〈期待できる学び〉中間部Bの4分の3拍子の旋律は、テレビや歌唱曲などを通して広く知られており、音色の異なる様々な楽器が重なり合うことで生まれるオーケストラの豊かな響きを味わって聴くことができる。
「ラバースコンチェルト」 デニーランデル サンデーリンザー 作曲 石桁冬樹 編曲	〈楽曲について〉クリスティアンベツォルト作曲の「メヌエット」をジャズ風にアレンジした作品で、前半の旋律を反復、変化させた構成になっている。 〈期待できる学び〉4つのパートに編曲されたこの教材は、各パートの楽器を自由に選択できるようになっている。主な旋律、飾りの旋律、響きを豊かにする和音、響きを支える低音といったパートの役割を考え、児童たちが主体的に聴き合ったり、楽器の選択を試行錯誤しながら考えたりして合奏をすることができる。曲の構成を考え、美しい響きになるように主な旋律を生かした書くパートの音量のバランスを考える活動にも適している。

(5) 深い学びについて

本題材で働かせる音楽的な「見方・考え方」は、「教材曲を音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、聴き取ったり感じ取ったりしたことを自己のイメージや感情と関連付けること」である。

本題材及における児童の姿を全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿を関連させると表2のようになる。

表2 「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本題材における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	「シャチハモ」を開催するという共通の目的を設定することで、学習課題に対して関心をもち、主体的に音楽活動に取り組んでいる。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	各パートのリズムの役割を考え、パートの重ね方を考えたり、全体のまとまりを考えたりして音楽をつくっている。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	音楽を形づくる要素を意識してつくり、共有したことを表現に生かしている。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	みんなで発表会を行うことで、多様な表現に触れ、互いを認め合い、一体感や共有感、達成感を感じている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	図工科や体育科で経験した「まとまり」や「バランス」を思い出しながら、表現に生かしている。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

楽器の音色や音色の特徴を生かした演奏の仕方を味わって聴き、どのように表現するか思いや意図をもって演奏したり、声の響きが重なる面白さを生かして音楽をつくったりすることができる。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
・曲想及びその変化と、楽器の音色と旋律の反復や変化との関わりについて理解し聴いている。 ・曲想と楽器の音色、リズム、旋律の特徴、音の重なりとの関わりについて理解し演奏している。	・楽器の音色、旋律の反復や変化を聴き取り、聴き取ったことと感じたこととの関わりについて考え、曲全体を味わって聴いている。 ・楽器の音色やリズム、旋律の特徴、音の重なりを聴き取り、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。	・曲想及びその変化と、オーケストラの楽器の音色や旋律の反復や変化に興味・関心をもって聴いている。 ・曲想と楽器の音色、リズム、旋律の特徴との関わりに興味関心をもち、友達と協働して、演奏している。

・声の音色やリズムのつなげ方や重ね方について、反復、変化、縦と横の関係をj用いて、全体のまとまりを意識し、リズムアンサンブルをつくっている。	・声の音色やリズム、音の重なりを聴き取り、即興的に声のつなげ方や重ね方を表現することを通して、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	・声の音色やリズムの特徴、音の重なりに興味・関心をもち声の響きが重なる面白さを生かして音楽をつくっている。
--	---	---

4 題材の指導計画（全8時間 本時7／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】
一	1	○曲全体を通して聴き、オーケストラの楽器のいろいろな音色について気付いたことや感じたことを発表する。 ○曲想の変化を感じ取って聴き、曲全体の構成について考える。	・オーケストラの構成を確かめ、どのような楽器が重なり合っているのか、聴き取ったことを確かめ合うようにする。 ・拍子や速度の変化に着目し、曲全体が大きく4つの部分で構成されていることに気付くようにする。	◆楽器の音色、旋律の反復や変化を聴き取り、曲の構成を考えながら曲全体を味わって聴いている。 【思・判・表】
	2	○曲想の移り変わりや、音楽を形づくる要素との関わり合いから、想像したことや感じ取ったことを発表する。	・旋律が反復するときに楽器の音色がどのように変化しているのかに注目して聴くようにする。 ・オーケストラの豊かな響きを感じ、想像したり感じ取ったりしたことを発表するように促す。	◆曲想の変化とオーケストラの響きに興味関心をもち、曲を味わいながら聴く学習に主体的に取り組もうとしている。 【主】
二	3	○旋律の特徴から各パートの役割について考えたりふさわしい楽器について考えたりする。 ○グループに分かれ、楽器の組み合わせを工夫しながら担当を決めて演奏する。	・拡大楽譜を活用して、パートの構成やその役割を楽譜と照らし合わせて確認できるようにする。 ・反復や変化に注意して、楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わりを考えて演奏できるようにする。	◆曲想と楽器の音色、リズム、旋律の特徴、音の重なりとの関わりについて理解している。 【知・技】
	4	○グループで互いの演奏を聴き合いながら、主な旋律が引き立つような響きになるようにバランスや演奏の仕方を工夫する。	・互いに聴き合ったり、演奏を確かめ合ったりしながら、主な旋律を生かすにはどれくらいの音量で演奏すればよいかなどのバランスを考えて演奏するようにする。	◆演奏の仕方や全体のバランスを工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。 【思・判・表】
	5	○グループごとに発表し、聴き合いながら互いの演奏の響きのよさや違いを楽しむ。	・自分たちの合奏はどのような楽器でどのように表現しようとしたのか、互いの思いや意図を伝え合ってよさを味わうようにする。	◆各声部が重なり合う響きを聴き合いながら音を合わせて演奏する技能を身に付けている。 【知・技】
三	6	○「ラバーズコンチェルト」のリズム伴奏を、楽器の代わりに声で演奏する。 ○4分の4拍子で2小節のリズムをつくり、即興的にアンサンブルをする。	・アンサンブルには各パートの役割があることを確認し、まず、既習の曲で演奏するようにする。 ・様々な声の高さや発音の仕方により、響きが異なることを感じ取りながら言葉を選択するようにする。	◆声の音色やリズムの特徴、音の重なりに興味・関心をもち、声の響きが重なる面白さを生かして音楽をつくる学習に取り組んでいる。 【主】
	7 本時	○自分たちが選んだ楽曲に合わせたボイスアンサンブルをつくる。 ○全体のまとまりを考え、工夫して音楽をつくる。	・自分たちが選んだ楽曲に合うように視点をもって、一人一人がアイディアを出し合い、声の音色やリズム、その重なりを確かめながらつくるようにする。	◆声の音色やリズムの特徴、音の重なりを聴き取り、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した音楽をつくっている。 【思・判・表】
	8	○グループごとに発表し、聴き合いながら互いの演奏の響きのよさや違いを楽しむ。	・自分たちの合唱は、各パートをどのように演奏したのか、互いの思いや意図を伝え合ってよさを味わうようにする。	◆各声部が重なり合う響きを聴き合いながら音を合わせて合唱する技能を身に付けている。 【知・技】

5 本時の指導（7／8）

(1) 指導目標

各パートのリズムの役割を考え、パートの重ね方を考えたり、全体のまとまりを考えたりしてボイスアンサンブルを工夫することができるようにする。

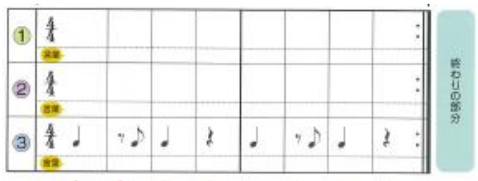
(2) 評価規準

イ 声の音色やリズムの特徴、音の重なりを聴き取り、思いや意図をもって全体のまとまりを意識した音楽をつくっている。
【思・判・表】

(3) 「見方・考え方」を働かせる手立て

- ・ 「音色」「リズム」「音の重なり」「縦と横の関係」という見方を働かせるために、工夫する視点を問い、曲想に合った表現を考えることができるようにする。
- ・ 曲想から抱いたイメージと自分たちが考えた表現とを関連付けて考えることができるように、児童用端末を使い、聴きながら確認できるようにする。

(4) 展開（波線部は「見方・考え方を働かせる手立て」に関わる働きかけ）

学習活動と児童の反応 (い...)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 既習曲を歌い、雰囲気づくりをする。(5分) ・ 前時につくったリズムアンサンブルにはどのメロディーが合いそうかな。 ・ この曲が好きだから、曲に合ったアンサンブルをつくりたいな。 ・ 「シャチハモ」に向けて、グループで力を合わせて声を出そう。	1-(1) 音楽に向かう気持ちをつくるために、「ラバーズコンチェルト」をリコーダーで吹いたり伴奏部分をボイスアンサンブルで演奏したりする。 1-(2) 自分たちが選んだメロディーに、リズムアンサンブルを加えた、ボイスアンサンブル発表会「シャチハモ」を開くことを確認し、音楽をつくる意欲につなげる。
各パートのリズムの役割を考え、アンサンブルを工夫しよう	
2 つくったリズムに音声をつけ、楽曲に合う工夫した表現を考える。 【深い学びの姿②】(25分) リズムの役割り ① 8分を刻むパート ・ ハイハットみたいな「チッチッチ」という言葉が合うかな。 ・ トライアングルみないに「ツツツツ」という音色にしようか。 ② 2、4拍目にアクセントをつけるパート ・ スネアドラムの音色を参考にして、声を重ねてみよう。 ・ 鋭い音にするためにクラベスのような「カンカン」という音にして歌って比べてみようか。 ③ リズムを支えるパート ・ この曲はパーカッションがよく聞こえてくるから、リズムがはっきりする発音がいいね。 ・ あまり声が大きすぎると他のパートが聞こえなくなってしまうな。 	2-(1) 前時に作成したリズムと、選んだメロディーにどのような言葉を組み合わせたら全体のまとまりがあるボイスアンサンブルになるか考えることができるように、リズムの役割を確認する。 2-(2) 「どんな言葉がよいか。」「声の重なりはどうか。」「全体のバランスはどうするか。」と工夫する視点を問い、曲想に合った表現方法になるように意識付ける。 2-(3) グループになり、声に出して口ずさみ、声の重なりが明確か、リズムや音色が曲想に合っているかなどを確認しながらボイスアンサンブルの表現方法を考えるようにする。 2-(4) グループごとに児童用端末で撮影し、自分たちの演奏を聴きながらつくることで、曲想やイメージと全体のバランスを確認できるようにする。 ◆ 声の音色やリズムの特徴、音の重なりを聴き取り、曲想に合った工夫をしているか。 (観察・ワークシート)【思・判・表】 B 工夫の視点を基にボイスアンサンブルをつくっている。 C→ リズムの役割をもう一度確認し、どのような声の音色で表すか考えるように伝える。
3 つくったアンサンブルを聴き合う。(10分) ・ ①のパートは「ブンブン」より「トゥントゥン」みたいに軽い声の音色が全体に合っているな。 ・ 「トゥンチッ」と違う言葉を組み合わせるのも面白いね。 ・ ①②のパートのリズムの重なりがはっきりしていたね。 ・ まず、拍がそろっていないと、バラバラに聞こえるからそろえるようにしよう。 ・ ③のパートの声をもう少し大きく出すことで、全体がまとまる気がするよ。 ・ このグループは、終わり方がかっこいいな。まねしたい。	3-(1) それぞれのグループが提出したアンサンブルを聴き合うようにする。 3-(2) 曲想に合った表現ができているか視点をもって聴き、自分たちの表現の工夫に生かせそうなところを考えるようにする。 3-(3) 友達のアンサンブルを聴いて、そのよさや面白さや美しさについての考えをワークシートに記すようにする。 3-(4) 視点を基にした発表を価値付けることにより、アンサンブルのよさや面白さや美しさを共有することができるようにする。
4 本時を振り返り次時の活動につなげる。(5分) ・ 選んだ曲の雰囲気には、さっきのグループのようなリズムや声の音色がしっくりくるね。自分たちも、もう少し工夫ができそうだね。	4 次時はボイスアンサンブル発表会「シャチハモ」に向けて最終調整をすることを知らせ、次時の見通しをもつことができるようにする。